

学校蔵書と地域アイデンティティ

——八幡商業高等学校蔵書の基礎調査——

嶋崎さや香

地域の文化やアイデンティティの形成に、蔵書はどのように関与し、それを下支えするのだろうか。このことを考えるためには、まず当該地に残された蔵書の具体的な性質を明らかにし、それが形成された理由や、それに関わった人物、変遷などを理解する必要があるだろう。

以下の滋賀県立八幡商業高等学校蔵書についての目録は、上記の問題について近江八幡市を事例に考察するための手がかりとして作成し、公開するものである。

*

1 八幡商業高等学校とその蔵書

八幡商業高等学校（以下、八商）の始まりは、1886年に大津に開校された滋賀県商業学校である。この滋賀県商業学校は、近世期に活躍した近江商人の伝統を引き継ぎながらも、近代的な商業教育を行うことを目的に、全国初の県立商業学校として誕生した。1901年の校舎新築の際に、現在地である八幡町（現在の近江八幡市）に新校舎を作り、移転⁽¹⁾した。

移転先である八幡町は近世以来商人たちを多く輩出してきた地域であり、当地の豪商たちが熱心に商業学校の誘致運動を展開していた記録も残されている。このように、八商は八幡への移転当初から、商人の町という地域のアイデンティティにとって欠くことのできない教育機関として認識されてきた学校であった。また現在まで100年を超える歴史のなかで卒業生として多く人材を商業界に送り出し、町のアイデンティティ形成に实际的な貢献をしてきている。ゆえに、この歴史ある八商の蔵書を読み解くことは、冒頭に記した問題を考察するためには、格好の事例となりうるものと思われる。

さて、現在の八商には尚商会館史料館（1997年竣工）と呼ばれる施設が、校舎とは別に設けられている。今回調査した書籍は、この建物内にある「蔵書庫」に保管されている。調査開始時、すでに和装本と洋装本が分けて保管されていた。今回は特に和装本の189タイトル、2914冊について蔵書目録を作成した。

この和装本については、同校で作成したと思われる161タイトル分の書名と冊数のみを記録した資料が残されている（調査者、作成者、作成時期ともに不明）。また、滋賀大学の木全清博氏によって「八幡商業高校教育史資料（2）—和書総目録

一覧⁽²⁾」が作成され、教育史関連の書籍76タイトルの目録を見ることができる。しかし、いずれも和装本全体を把握するには十分な目録とは言えない。

以上のことから、本調査ではこれまでの先行調査を補完すべく、和装本すべての目録作成を行った。また、その中で特に注意をはらったのが蔵書印である。蔵書印は、書籍がどこから移動してきたのか、誰が寄贈したのかを示す重要な情報であるため、できる限り目録に記入するよう努めた⁽³⁾。

また蔵書構成を明らかにするために、本目録では日本十進分類法（以下、NDC）によって書籍を分類した。明治以前に刊行された書籍については、『国書総目録』の分類項目に従う方法が一般的であるが、八商という一つの場に集められ、利用された蔵書群の構成を明らかにするためには、同一の分類項目が必要と考えたためである。

その結果、NDC 分類の第一次区分表（0～9）で最も多くを占めたのは、「2・歴史」の54件、次いで「9・文学」が32件、「1・哲学」が29件となった。さらにその内訳を第2次区分（00～99）によってみると、最も多い歴史では、「21・日本史」が31件と60%程度を占め、次いで「22・東洋史」が12件、「文学」でも「91・日本文学」にあたる書籍が19件、次いで「92・中国文学、その他の東洋文学」が13件となった。これに対して、「哲学」は「12・東洋思想」にあたるものが70%にあたる21冊を占めていた。こうした一方で、「3・自然科学」や「5・技術」、「6・産業」などの分野が著しく少ないことも分かった⁽⁴⁾。

2 蔵書印から見る目録データの可能性

では、八商の和装本目録からどのようなことが明らかにできるだろうか。ここでは特に、蔵書印について考えることで、拓かれる可能性について考えてみたい。以下の蔵書印の印字はすべて新字に翻刻している。

まず一つに、八商の歴史を明らかにするための重要な資料群であることが指摘できる。この蔵書には1886年に大津に商業学校が誕生して以来、八幡への移転や校名の変更、合併など幾度かの変遷を経ながらも、その都度校内で用いられた書籍が納められている。設立時の校名が彫られた印（図1）や、1901年以降の校名が刻まれた印（図2）など、学校に関連する蔵書印として、七つの蔵書印を見ることができる。

学校の蔵書印が捺された書籍は、どのような〈知〉が八商で必要とされてきたのか、また近代商業教育が模索される中で必要とされた書籍とは何であったのか、その様相を探るための重要な手掛かりとなるだろう。

二つ目に、八商を中心とした地域の歴史を考察するためにも、本資料群は有効で

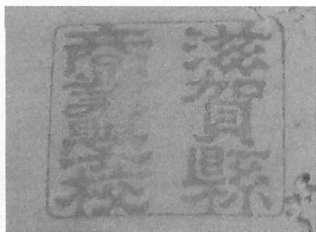


図1：滋賀県商業学校



図2：滋賀県立商業学校図書之印

ある。蔵書印は、地域の有力者が書籍を八商に寄贈した経緯を知る手掛かりともなる。一例をあげれば、地域の豪商であり、八商を八幡の地へと誘致する際に強力に働きかけた西川重威^{しげたけ}（1848-1905。11代目西川甚五郎、号は楓園）という人物がいる。重威の寄贈書については、1976年に学校が行った蔵書整理の中で47部1563冊が確認されているが、その詳細は不明であった。⁽⁵⁾本調査では、「明治卅八年西川月廻舎贈」（図3）と記された蔵書印によって、重威の寄贈書の書名や冊数などを明らかにすることができた。

重威の寄贈書を具体的に明らかにすることで、地域の豪商が同校にどのような教育を期待していたのか、その寄贈書を以て、間接的に、どのような教育を地域の子弟に施そうとしていたのか類推することができるだろう。また、西川家は八幡商人として代々続く有力な商家であることから、その家にどのような知識が必要とされていたのか、部分的にはあるが寄贈書から知ることが可能となる。

さらに蔵書には旧藩や旧藩校での所有を示す印（図4）や、明治以降の師範学校で所蔵されていたことを示す印も含まれる。捺された蔵書印をたどることで、幕末から明治期にかけての滋賀における教育行政の様子を見ることにもつながる。教育機関と関わりがある蔵書印は大きく四種類に分けられる。



図3：明治三十八年西川月廻舎贈



図4：彦藩弘道館蔵書印

(ア) 旧藩の印

彦根藩の藩学校蔵書…「彦藩弘道館蔵書印」、「稽古館」

宮川藩刑法局の蔵書…「宮川藩刑法局」

(イ) 明治以降の諸学校印

「彦根藩学校蔵書」、「犬山県学校蔵書」、「彦根初等師範学校印」、「彦根中学校印」、「大津師範学校」、「小浜伝習所章」、「滋賀県大津師範学校蔵書印」、「富山学校蔵書」

(ウ) 書籍縦覧所印

「大津師範学校書籍縦覧所蔵書之印」、「滋賀県師範学校書籍縦覧所蔵書之印」

(エ) 八商とその前身の諸学校の印

「滋賀県商業学校」、「滋賀県立商業学校図書之印」、「滋賀県県立商業学校」、「滋賀県立八幡商業学校図書」、「滋賀県八幡商業学校図書之印」、「滋賀県八幡高等女学校」、「滋賀県八幡高等女学校東宮殿下御成婚紀念婦人文庫」

これらの蔵書印が示すように、八商の蔵書には近世期以来様々な教育機関で所蔵されてきた書籍が集積されている。特に（ア）～（ウ）までの蔵書の存在からは、江戸時代に藩や藩校で所蔵されていた書籍が、明治維新後に滋賀県によって集められ、新たな教育機関に交付されたという当時の書籍流通の在り方を辿ることができる。このような県を媒介とした藩校蔵書の移動は、滋賀県立彦根東高等学校の蔵書調査でも確認されている。⁽⁷⁾

八商に残された書籍を明らかにすることは、こうした藩校蔵書の近世から近代にかけての移動ルートをより正確に把握するための基礎資料を作ることであり、同時に八商が当時の県教育行政の中でどのような立ち位置にあったかを探る手立てにもなるだろう。

以上のように、本蔵書を検討することは、八商、近江八幡という地域、滋賀県の教育など、それぞれの来歴を考察する際に有力なアプローチとなりうる。そしてその目標をふまえた上で、八商に誰が、どういった経緯で、どのような書籍をもたらしたのか。そしてそれらはどのような期待が込められていたのか。その書籍が人々にどのような影響を与えたかを考えるならば、これは、〈読み手の環境が形作られてゆく要因とその作用を歴史的に捉えようとする〉⁽⁸⁾リテラシー史研究の試みにも通じていく。以上の理由から、本蔵書目録をここに公にする。

3 目録作成の手順、および凡例

調査の流れと目録作成の手順は以下のとおりである。まず書庫の見取り図を作成

し、各棚に識別番号を振り一冊ごとに表紙や奥付、蔵書印などを撮影した。そのうえで、冊数や書籍の状態などを記録した。

これら画像データと記録をもとに、基礎となる目録を作成した。明治以前の書籍については国文学研究資料館が提供している日本古典籍総合目録データベース (<http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html>) を参照し、明治以降の書籍については国立国会図書館の国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp>) と CiNiiBooks (<http://ci.nii.ac.jp/books/>) を参照した。

また蔵書印については、『滋賀の図書館』や『新編蔵書印譜』などを参考に翻刻⁽⁹⁾を行った。

目録の項目と注意点については以下の通りである。なお、データについては、ウェブサイトでも公開することとする⁽¹⁰⁾。

書名……表紙上に記された外題をとった。題簽が剥れるなどして不明の場合は、巻首の内題、見返しの順に決定し括弧をつけて記した。

著・編者……著者、あるいは編者の最初の一名をとった。

出版者（社）……出版社、出版人を記した。複数名の場合は最初の一人を記した。また発行書肆や発行人、発兌も含めた。

発行年……明治以降の書籍については発行年を記した。近世期の書籍について発行年の確定が困難と判断し、すべて注記に記載した。奥書に記された年号はそのまま記し、序や跋などに記された年号はその場所も記した。

冊数

蔵書印（１）……八商の蔵書印を年代順に並べ記号（Ａ～Ｇ）で記した。1948年に八商と合併した八幡女学校もこちらに含めた。

蔵書印（２）……八商関連以外の蔵書印はこちらに記した。捺された数が多い順に三つ取り上げ、記号（Ｈ～Ｊ）で記した。それ以外については蔵書印の文字を「」内に記入した。蔵書印以外に、所蔵者を示すと考えられる書込みについては [] 内に記した。

注記……序や跋などに記入された年代、書籍への書き込みはこちらに記した。書き込みは [] 内に記した。

分類……国立国会図書館で各書籍の検索を行い、そこで示された NDC の番号を参考にした。分類されていない書籍については、書名を参考に分類し（）をつけて記した。

なお、欠損等で判読不能の場合は□とした。また、人名以外は新字体に改めた。蔵

書印（A～J）について、[表：蔵書印とその数]としてまとめた。

蔵書印とその数

記号	蔵書印文	数	記号	蔵書印文	数
A	滋賀県商業学校(図1)	84	F	滋賀県八幡高等女学校	2
B	滋賀県立商業学校図書之印(図2)	48	G	滋賀県八幡高等女学校東宮殿下御成婚記念婦人文庫	10
C	滋賀県県立商業学校	5	H	明治卅八年西川月廬舍贈(図3)	47
D	滋賀県立八幡商業学校図書	9	I	彦藩弘道館蔵書印(図4)	27
E	滋賀県立八幡商業学校図書之印	157	J	大津師範学校書籍縦覧所蔵書之印	32

* 本研究は京都大学教育学部同窓会京友会（2012年度）の研究助成を受けている。
 なお本目録の作成は、同校より上記調査（2012年5月～2013年2月）の許可をいただくことで可能となった。特に初めて訪問して以来、これまで全面的に協力してくださった杉田弘治先生と、調査のお願いに快く応じてくださった辻井美恵子校長先生に、改めて感謝申し上げたい。

- （1）上卯治郎編『八幡商業五十五年史』（滋賀県立八幡商業学校創立五十周年記念会、1941）を参照。1972年に同校が発行した「学校要覧」によると、学校名は次のような変遷をたどっている。1886年に滋賀県商業学校として開校、1901年に滋賀県県立商業学校、1908年に滋賀県立八幡商業学校、1948年に滋賀県立八幡高等女学校と統合して滋賀県立八幡高等学校、1949年に中央高校、1951年に八幡高校、1955年に滋賀県立八幡高等学校となり現在に至る。
- （2）木全清博編『滋賀県教育史資料目録9』（滋賀大学教育学部社会科教育研究室、1999）p.49～58。
- （3）『滋賀県教育史資料目録9』（前掲）には、八商の蔵書印「滋賀県商業学校」や「滋賀県立商業学校図書館」のほかに、旧藩校や師範学校の蔵書印の「彦藩弘道館蔵書」や「大

書名	著・編者	出版者(社)	発行年	冊数	蔵書印(1)
あしのわか葉	塚本里子	渡辺千治郎	1933	2	D, E
東鑑		野田庄右衛門		25	B, E, H
いろは数引大全	井汲養造 編	石田忠兵衛	1897	1	
栄海塵劫記大成				1	
栄花物語		林和泉接		20	B, E, H
洞鑑類函				1	B, E, H
洞鑑類函			1892	59	B, E, H
延喜式				50	B, E, H
大鏡				3	A, E, I, J
大系図				30	E, H
外国貿易論商事要項				1	
楷書千字文	田代秋鶴	雄山閣	1933	1	F
(華夷通商考)	西川求林斎 輯			4	B, E, H

津師範学校書籍縦覧所蔵書印」などが記載されている。しかし、学校関係以外の蔵書印については「明治廿八 西川廻^マ廻^マ会贈」が捺された一点のみの記録にとどまる。学校関係以外の蔵書印もまた、書籍の入手経路を示す重要な資料となるため可能な限り目録に記載するよう努めた。

- (4) もちろん、本調査は和装本のみを対象としているため、洋装本の調査結果と統合すれば蔵書構成の変化が予測され、今後の課題として残る。
- (5) 『八商百年史』編集委員会編『八商百年史：滋賀県立八幡商業高等学校』（八商創立百周年記念事業実行委員会、1986）の99頁を参照。また滋賀県内の図書館について網羅した『滋賀の図書館』（平田守衛編／発、1980）にも同様の記述がみられるが、西川重威の寄贈書の目録は管見の限り発見できていない。本調査では重威の寄贈書47部1592冊を目録化した。
- (6) 各藩の蔵書は滋賀県がいったん集め、その後1879年開設の大津師範学校書籍縦覧所に交付された。1887年の縦覧所廃館にともない、一部の蔵書が県から尋常中学校及び商業学校へと再交付された。各藩蔵書の多くはその行方が明らかにされていないが、彦根藩校蔵書については滋賀大学教育学部図書館、彦根市立図書館、彦根城博物館、彦根東高等学校、八幡商業高等学校にその所蔵が確認されている。『滋賀の図書館』（前掲）、彦根東高等学校校史編纂委員会編『彦根東高百二十年史』（創立百二十年周年記念事業実行委員会発、1996）参照。
- (7) 彦根東高等学校校史編纂委員会編『彦根東高百二十年史』（創立百二十年周年記念事業実行委員会発、1996）。
- (8) 和田敦彦「発信される「日本」—KBS 戦前文書のリテラシー史的意味—」（『リテラシー史研究』2008. 1 p.(33)）。
- (9) 『滋賀の図書館』（前掲）、『新編蔵書印譜』（渡辺守邦／後藤憲二編、青裳堂書店、2001）。
- (10) リテラシー史研究会ウェブサイト（<http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/>）。

蔵書印(2)	注 記	分類
		915
	寛文元辛丑年極月吉辰烏丸通下立賀下町野田庄右衛門板行(最終巻末尾)	210
	出版御届積善館専売所	813
小嶋]、[江州蒲生郡第拾所中野村小嶋氏時]	和漢書物仕入所須磨姓弘簡堂、升屋勘兵衛版	419
	明暦二年(最終巻末)、林和泉掾板行	913
		032
	光緒壬辰仲春上、海同文書局石印	032
	慶応元年(五十巻末)、出雲寺藏版	322
		913
		288
	写本	(670)
	書道学習帳の特典券付き	728
	宝永五、書林梅村弥右衛門古河三郎兵衛同刻、[明治十八年版権免許](五巻見返)、[五冊之内よこみや用](一巻裏見返)	290

書名	著・編者	出版者(社)	発行年	冊数	蔵書印(1)
郭注莊子	郭象玄 撰			10	A, E
華語跬歩	御幡雅文	文求堂書店	1907	1	D, E
仮名乃栞	山内香溪 編	文盛堂書店	1914	1	D, E
河及湖沢	志賀重昂	政教社	1897	1	A, E
観鷺百譚	広沢勝知慎			5	B, E, H
漢韓史談	大槻如電	内田老鶴圃	1899	2	A, E
菅家後草		開益堂細川清助		1	B, E, H
菅家文草		銭谷惣四郎		6	B, E, H
漢書評林	大世貞 撰	林和泉掾		50	A, E, I
韓非子全書	藤澤南岳 校	松村九兵衛	1884	10	A, E
韓文	蔣之翘 輯			26	B, E, H
(翰墨全書)	大字永 纂／沈瑞 訳			5	B, E, H
揮毫書式大観	小野光雄 編	斯華会	1919	1	D, E
(紀念集)	高田義甫	高田義甫	1880	1	
金銀図録	近藤守重 輯			7	A, E
近古史談	磐溪大槻	鴻宝堂		4	A, E
近世畸人伝	伴蒿蹊			5	E, H
欽定大清会典				6	C, E
禁秘抄				3	B, E, H
(刑法)		高田義甫	1880	1	
交通通史	杉了二 訳	叢書閣	1876	4	A, E
網鑑易知録	周之炯静専	吉野家仁兵衛	1869	48	A, E, J
康熙字典	陳邦彦 撰			55	A, B, E, J
江家次第				19	B, E, H
校正古刀銘鑑	菅原長根			4	B, E, H
(高等国語習字帖 女子)	玉木本三郎 編	金港堂書籍株式会社	1901	1	
校本万葉集付巻	佐佐木信綱 編	校本万葉集刊行会	1925	25	D, E
(公用文)		須原屋茂兵衛	1874	1	G
古今模様雛形大全				1	
国史眼	重野安繹 纂	大成館	1890	7	A, E
穀梁	范南 集			2	A, E, I, J
古訓古事記	三国幽眠 解	山城屋藤井佐兵衛	1875	3	G
古事記伝	本居宣長 撰	菱屋孫兵衛		48	A, B, E, I, J
故実叢書	今泉定介 編	吉川半七	1906	38	C, E
作文須知	平山政瀆 編	佐々木慶助	1877	1	A, E
左纏	林堯叟 註	山城屋佐兵衛		15	A, E, J
三代実録	藤原時平 撰			20	B, E, H
三体千字文	村田浩藏	浜本伊三郎	1885	1	A, E
纂評謝選拾遺	頼又二郎 選	行徳敬二郎	1883	5	A, E
(史記)				1	E
詩經大全		吉文字屋庄右衛門		15	A, E, I, J
四書輯疏	安幾			27	A, E, I
(四書正解)		須原屋茂兵衛		29	A, E, I
史籍集覧	近藤瓶城 編	近藤瓶城編、1881-1885、近藤活版所	1881	468	B, E, H
支那史要	市郡環次郎	吉川半七	1894	2	A, E
支那史要付図	市郡環次郎	吉川半七	1894	2	A, E

蔵書印(2)	注 記	分類
下明印	天明三年梓行(十巻末尾)、植村藤右衛門計四名記載	120
		820
		(811)
		291
	享保十九	728
		220
	貞享四年(十三巻跋)、黒川道祐による跋、和漢洋書籍所、開益堂細川清助	919
	元禄十三年(最終巻跋)、中村順言謹跋、銭谷惣四郎	919
稽古館」印	林和泉掾板行、松栢堂	220
	出版人松村九兵衛他計七名	128
下明印	万治三、唐韓昌黎集(内題)、中江久四郎蔵梓	921
下明印	寛永二十癸未年(最終巻末尾)、田原仁左衛門新刻	826
		728
	業買人島林専次郎計三名	911
		202
	鴻宝堂の蔵版書目一覧表	210
	寛政二年(序)、文栄堂蔵版、前川善兵衛	281
		322
	御書物屋吉田四郎右衛門版	210
	出版人高田義甫計三名、九皋義塾蔵梓	326
	柳叢書閣丸善書店計六名	678
	発行書肆に吉野家仁兵衛計十三名	222
彦根藩学校蔵書」印	安永九、浪華都賀庭鐘識、風月荘左衛門計十一名	820
	承応二年(目録巻末)、蓬生巷林鶴	210
	菅原長根再識	756
高等第一学年小嶋すえ女]		375
	鉄入り	911
	三部發行書肆須原屋茂兵衛京都村上出店計八名	816
		727
	重野安繹、久米邦武、星野恒同纂	210
	傷みが激しい	123
	文政堂、門人西京馬嶋弘業計四名校	210
滋賀県師範学校書籍縦覧所蔵書之印」印	鈴乃屋蔵版文化五年(目録巻末)、発行書肆菱屋孫兵衛計十三名	210
	小杉慇郁校正、吉川半七	210
		816
	発行書肆山城屋佐兵衛計十名、吉治梅太郎宛葉書有り	123
	蓬蒿舎蔵版寛文十三年林権兵衛計三名(跋)、源原屋茂兵衛計九名	210
	讀請出版人浜本伊三郎	728
	発兌人松村九兵衛計五名	921
稽古館」印		222
		123
	傷みが激しい	123
	元禄丁丑春三月洛陽後学三雲義正新四郎謹書(跋)、須原屋茂兵衛計五名、安政三年出版	123
	近藤瓶城(「史籍集覧総目解題」の序)、全体明治十四～十八年に刊行。	210
		222
		222

学校蔵書と地域アイデンティティ

書 名	著・編者	出版者(社)	発行年	冊数	蔵書印(1)
島津国史	山本正誼 撰	島津家編集所	1905	10	B, E
謝選拾遺	頼久太郎 編	三木美紀		3	A, E
周易伝義大全	石菴鶴信之子 訓	村上平樂寺		10	A, E, I, J
十三経注疏	瑛 註			21	A, E, I, J
十三経注疏	趙氏 註			1	A, E, I, J
習字書翰文	小笠原寛 編	松村文海堂	1906	1	B, E
十七史		汲古閣		327	B, E, H
(珠算問題集)	轟又五郎 編		1885	1	G
荀子増注	山世璠正 編	平安書肆水玉堂		11	A, E, I, J
(春秋左伝註疏)	杜氏 註			1	A, E, I, J
春秋集伝大全	羅浮山人 訓			16	A, E, I, J
小学国文読本	山形悌三郎	文学社	1893	2	
小学女子新習字帖	奥田清十郎 編	関西図書株式会社	1898	1	
(小学読本)	田中義廉 編	内藤伝衛門	1875	3	
小学読本字解	丹羽適斎 編	梶田勘助	1876	1	G
商用文例	森下岩楠 編		1893	1	E
書学捷徑	前田圓	博文堂	1903	2	C, E
書経大全				8	A, E, I, J
続日本紀	藤原維繩 撰	須原屋茂兵衛		20	B, E, H
(続日本後記)	藤原良房 撰	出雲寺林元章		20	B, E
史論	良斎安積	文求堂	1872	2	A, E, J
(尋常小学四年)	富山房編輯	富山房	1901	1	
新撰姓氏録	源稻彦 校	出雲寺文次郎		4	B, E, H
新撰毛筆画帖	図画研究会	繁本良之助	1900	2	
新律綱領			1870	5	E, J
(新令字解)	荻田嘯 輯	大野木市兵衛他		1	
数学稽古本	田中治郎	辻本久兵衛	1878	1	G
西宮記				10	B, E, H
成形図説				30	B, E, H
正字通				48	A, E
正文章軌範評林	謝枋得 撰	鹿児島県	1872	14	A, E
西洋新書	瓜生政和 編	宝集堂		1	G
西洋品行論	斯邁爾斯 撰／中村正直 訳	珊瑚閣	1880	11	E
世界国手引	小林謙吉 訳	日柳政猷	1874	3	G
世界風俗往来		須原屋茂兵衛	1872	1	
節用集	駒谷散人 撰 輯	村上勘兵衛		5	A, E
戦国策	鮑彪校 註	河内屋喜兵衛		10	A, E, I, J
箋註蒙求校本	岡白駒 箋	永田調兵衛	1883	3	A, E
先哲叢談	原三右衛門	朝倉八右衛門		4	A, E
先哲叢談後編	東條耕 著／徳齋原義 撰	群玉堂		1	A, E
先哲叢談年表	東條耕 撰			1	A, E
泉譜	源龍橋			3	B, E, H
草字彙	乾隆	山中市兵衛	1879	6	A, E
草書千字文	村田浩藏		1882	1	E
草書千字文	田代秋鶴	雄山閣	1934	1	G

蔵書印(2)	注 記	分類
		219
	嘉永二年(跋)、各国書籍発兌所、浪花書林三木美紀	921
不明印	慶安五、肆村上平楽寺刊行	123
	傷みが激しい	123
	傷みが激しい	123
	[市立大阪高等商業学校教諭只見徹校閲・大阪市立大阪高等商業学校助教諭小笠原寛編書](見返)	728
	掃葉山房(版心題の下)、十七史の付として「宋遼金元」とある	222
[中野村大字中野小嶋仙治郎]		419
	山世瑤正編、久保愛注、文政八年(二十巻末尾)、山口重紀識	124
	傷みが激しい	123
不明印		123
[中野小嶋きの春]、[滋賀県蒲生郡中村字中野尋常小学校小嶋野生徒女]		817
[中野村1年小嶋きの]	海石村田浩蔵画	375
	滋賀県下書林名計二十七名、発兌書肆内藤伝衛門計九名	817
		817
[小嶋春]	版權所有森下岩楠計三名	816
	乾、坤の二冊	728
		123
	明暦丁酉(跋)、業行書房須原屋茂兵衛計七名記載	210
	寛政七年再刻(跋)	210
大山県学校蔵書]印	書肆須原屋茂兵衛計十名	210
[尋常四年小嶋春女]	[海石村田浩蔵書](奥書)	375
	文化四、発行書肆京三条出雲寺文次郎計十二名	288
[小嶋春]	乙種第一、二の二冊	720
[宮川審判法局]印	明治三年(巻頭上諭部分)	322
[小嶋]	慶應四、大野木市兵衛計三名	813
	出版人辻本久兵衛、販売書肆若林喜助計五名	410
[富山学校蔵書]印	写本[嘉永元年原田金吾写](十巻末尾)	210
不明印		610
不明印	挟入り	823
[大津師範学校]印	複本あり	826
		290
[彦根初等師範学校印]印、[彦根中学校印]印		150
	江嶋喜兵衛計二十名	290
	発兌書肆東京須原屋茂兵衛計七名	380
[岡本氏]	享保二、[岡本氏](裏表紙)	813
	発行書肆河内屋喜兵衛計二名	220
	再刻出版人永田調兵衛計五名	280
	文化十三、発行書林朝倉八右衛門刻計六名	121
	文政十三年(見返)、京都河内屋富士四郎計十一名	121
不明印	文政十年(序)、慶元堂和泉屋庄次郎、青雲堂英文蔵	121
不明印	寛政二、柏原屋清右衛門計三名	337
	出版人山中市兵衛、桂雲堂老書館蔵版製本発兌計三名	728
	売払所柳原喜兵衛計二名	728
		728

学校蔵書と地域アイデンティティ

書名	著・編者	出版者(社)	発行年	冊数	蔵書印(1)
草書要覧	書道及書道社 編	二松堂書店	1918	1	D, E
増続大広益会玉篇大全	毛利貞斎			12	A, E
宋拓智永真草千文	下中弥三郎 編	平凡社	1935	64	D, E
続近世畸人伝	熊海堂 輯／伴蒿蹊 補			5	E, H
続唐宋八大家文読本	柴田清堅 校			2	A, E, I, J
続唐宋八大家文読本	瀬海輔李徳 編	出雲寺万次郎		10	A, E, I, J
続日本文章軌範	石川鴻斎 撰	稲田佐吉	1882	3	A, E
大学解	荻生徂徠			1	A, E, I, J
大広益会玉篇	陳彭年 修	林甚右衛門		6	A, E, I, J
大日本貨幣史		大蔵省	1876	46	A, E
大日本史	源光圀 修		1900	25	A, E
大日本史	源光圀 修			72	A, E
大日本史	源光圀 修			1	A, E, J
太平記注釈	萩野由之 校	誠之堂	1921	2	F
玉かつま				15	A, E, I
中庸解	荻生徂徠			2	A, E, I, J
手紙之文	小野廻之助	芳川半七	1893	1	A, E
暇叢録				6	E, H
宥陰存稿	塩谷世弘		1870	6	A, E
東雅	新井君美	吉川半七	1903	5	C, E
東国通鑑	林白水 訓		1883	30	B, E, H
藤樹全書	志村己之助 編	川勝鴻宝堂	1893	10	A, E
唐宋八大家文読本	沈徳沈 撰／雲谷仁斎 訓	東崖堂	1882	15	B, E, H
東洋通史	久保得二	博文館	1904	8	B, E
読史余論				7	A, E, I, J
二十一代集				34	B, E, H
日本外史	頼久太郎	頼又太郎	1880	22	A, E
日本外史補	岡本橋 撰			9	A, E
日本後紀	藤原冬嗣 撰			10	B, E, H
日本書紀	小寺清 撰	山城屋佐兵衛		15	E, H
日本書紀		須原屋茂兵衛		15	A, E, J
(日本史略)	上羽勝衛	二書堂	1875	1	G
日本政記	頼襄子成	須原屋茂兵衛		3	A, E, J
日本美術全書沿革門	末松謙澄 訳	八尾書店	1896	1	A, E
日本美術全書応用門	末松謙澄 訳	八尾書店	1897	1	E
日本文章軌範	石川鴻斎 編	稲田佐吉	1888	3	A, E
佩文韻府		共益商社	1896	62	B, E
百日能書法	山崎芳太郎	沢九泉堂	1896	1	A, E
百練抄				14	E, H
標註十八史略校本	曾先之 編／遂軒關徳 評註	花井卯助	1884	7	A, E
標註職原抄校本				4	B, E, H
標註職原抄校本 別記	藤原芳樹 撰	豊後肥後屋半兵衛		2	B, E, H
標註正文文章軌範	謝枋得 編／五十川左武郎 輯	此村庄助	1881	3	A, E
微粒子病肉眼鑑定法	佐々木忠二郎	丸善商社書店	1888	1	A, E

蔵書印(2)	注 記	分類
		728
	嘉永七、大坂書肆松村九兵衛計四名	813
		728
	天明八年(最終巻末)	281
	柴田清堅高甫校正	921
	文政八	928
	沈文煒 評、清国周虎臣老舗計八名	919
「稽古館」印	玉海堂群玉堂梓	123
	寛永辛巳年(最終巻末)、書舎林甚右衛門	823
		377
		210
「滋賀県大津師範学校蔵書印」印	写本[享保五年源宗堯謹叙](引用書目後序)、[安永七年戊戌歳昌八月十三日 墜採筆至巽八巳亥歳昌八月十一日功畢、藤原長璉](目録末尾)	210
	傷みが激しい	210
		913
		914
不明印	宝暦三、松本新六、藤木久市同刻	123
		816
不明印		049
不明印	山城屋政吉	919
		813
	寛文七和泉掾白水(三十巻末尾)、林白水訓点(跋)、書肆松根堂出雲寺文治郎	220
	取次売払所東京大倉孫兵衛計四十六名	121
		921
		220
「稽古館」印	写本	210
		911
	発兌書林田中田右衛門計四名	210
	嘉永三年(序)、淡路岡本橋撰	210
「坪内蔵書」印	保己一校検、寛政十一年(二十四巻末尾)	210
	寛政五年(序)、発行書林山城屋佐兵衛計十一名	210
「彦根藩学校蔵書」印、不明印	文政十三、須原屋茂兵衛計九名	210
	書肆岡田文助計二名	210
「彦根藩学校蔵書」印	発行書房須原屋茂兵衛計七名	210
		702
		702
	売払書肆周虎臣老舗文選楼老舗計六名	919
		921
		728
「小河一敏」印、[明治元年十一月俸余シ金ヲ 以求之郷学所用あつるもの也四拾式部之内、 知県事小河一敏]	享保三年(最終巻末尾)、和学講読所蔵版、京都巷屋善助計二名、校校保己一	210
	大阪書房櫛原喜兵衛等計五十五名記載	222
		322
	安政五、発行書林豊後肥後屋半兵衛計十一名	322
		921
	販売書肆西中屋邦太計十一名	630

書 名	著・編者	出版者(社)	発行年	冊数	蔵書印(1)
武器図考				10	B, H
(扶桑略記)				6	B, E, H
物理階梯	水溪良孝 標註	田中治兵衛	1878	2	
武備志	茅元儀 輯			100	B, E, H
文海指針	小葉昌造 編	吉川半七	1876	1	A, E
文章軌範評林				1	A, E
文章添削方針	阿保友一郎	富山房	1898	4	A, E
文体明弁	徐師曾 纂			40	B, E, H
宝墨軒千字文	井上恒一	晚翠軒	1931	1	D, E
北溟遺珠	添田弼 編	西川貞二郎	1894	1	E
本草綱目				45	A, E
増鏡				10	A, E, I, J
(万葉集)				20	A, E, J
(みかぐらうた)	中山美伎	前川菊太郎	1888	1	
水鏡				8	A, E, I, J
明鑑易知録	炯庵尊 撰			1	A, E, I
明治習字帖	小林義則 編	文学社	1894	1	
明治天皇偉徳鴻業之根源	河端金三郎	河端金三郎	1920	1	D, E
名節録		須原屋茂兵衛		3	A, E
毛詩				4	A, E
毛詩註疏	孔穎達 疏			1	A, E, I, J
文徳実録	藤原基経 撰	出雲寺和泉		10	B, E, H
八雲御抄				7	B, E, H
(郵便日用文)			1875	1	
(洋算近道)	種子島 編	河内屋亀七	1873	1	G
礼記	漢鄭氏 註			1	A, E
(礼記集説)				6	C, E
礼記集説大全	道春 訓			14	A, E, I, J
六臣註文選	蕭統 撰	蕭統撰、野田庄右衛門		31	B, E, H
柳外遺稿	原田譲	原田四郎左衛門	1908	2	E
柳文	蔣之翘 輯／石斎鶴飼 訓点			24	B, E, H
令義解	清原真人 撰	山城屋佐兵衛		10	A, E, J
類聚国史考異				2	B, E, H
類聚三代格		菱屋孫兵衛計		16	B, E, H
論語徴	物茂卿			10	A, E
和漢古今稀世泉譜	中川積古斎	文栄閣前川亦三郎		3	B, E, H
倭漢三才図絵	尚順 編			68	A, E
和訓栞	谷川士清 纂			33	B, E, H
倭訓栞中編	谷川士清 纂			30	B, E, H
和名類聚抄	那波道円 識			5	A, E
□商会所条例			1876	1	

蔵書印(2)	注 記	分類
	写本[從寛永四丁亥冬到宝永五戌子初春、桃水子](十卷末尾)	756
「瑞乾家蔵」印		210
	出版人田中治兵衛、標柱水溪良孝	420
		399
	発売書林佐々木惣四郎計十名	921
「大津師範学校」印	寛政三年(序)、東亀年	921
		816
	寛永五、識識舎蔵梓、皇漢洋書籍販売所、三重県桂雲堂豊住伊兵衛計二名	920
		728
		919
	正徳甲午(最終巻末)、御書物所唐本屋清兵衛計三名	462
		913
不明印	宝永六、御書物屋出雲寺和泉	911
	神道直轄天理教会所本部蔵版	170
		913
		220
「小島仙作郎弥左衛門」		375
		155
	慶應二、発行書林須原屋茂兵衛他計十一名	281
「詩仙堂」印		123
	傷みが激しい	123
	寛政八校訂新彫(最終巻末)	210
		911
	華井卯助蔵	(816)
	「□漢西洋書籍所」(裏見返)	411
「詩仙堂」印		123
		123
		123
不明印	中野庄右衛門重周計二名	921
		919
不明印	中江久四郎蔵梓	921
「彦根藩学校蔵書」印、「小浜伝習所章」印、「滋賀県師範学校書籍縦覧所蔵書之印」印、「犬山県学校」	寛政十二、保己一校検	322
	文化十三年(跋)	210
不明印	発行書肆京都菱屋孫兵衛計十三名(十六巻末尾)	210
		123
	安政六年(一卷末)、文栄閣前川亦三郎、発売書肆に大倉孫兵衛計八名	337
	岡田三郎右衛門計五名	031
	文政十三、須原屋茂兵衛計五名	813
	文久二、風月庄左衛門本屋儀助梓、書肆須原屋茂兵衛計十三名	813
「神田家蔵」印、不明印	元和三年羅浮散人洗筆於海母溪清處(序)、番陽那波道円識、書林洪川清右衛門計二名	813
	[明治九年八月二十四日滋賀県令龍手田安定代理滋賀県県参事酒井明](最終頁記載)	(320)

(しまぎき・さやか／京都大学大学院)